

地域の核的人材として働いてもらうことで 自立や社会復帰への足がかりをつかんでもらう。

人は誰でも良好な社会環境のもと、幸せな生活を送る権利を等しく分け持っているはずである。しかし、現実的にはさまざまな格差が存在し、貧困者や社会的弱者を生み出している。そうした人々の命を守り、生きる喜びや人間としての尊厳を取り戻してもらうための事業に「グローバルヒューマン」は取り組んでいる。

当然の義務、債務としての 貧困者・社会的弱者支援。

滋賀県北部、琵琶湖の最奥部に拠点を置くNPO法人グローバルヒューマンは、1992年の結成以来（NPO法人化は2004年）、反貧困ネットワーク、ホームレス支援全国ネットワークの中心的メンバーとして活動を続けている。貧困者や社会的弱者に対し、同法人が所有する社会福祉用ボランティア施設を無料や低額で提供するとともに、医師・弁護士・行政などと協働して疾病治療、債務整理、家族・親族関係修復などに取り組み、さらに自立と社会復帰を果たすための就労支援活動を実施している。

たとえば、そのひとつが、滋賀県大津市から委託されている「就労意欲喚起等支援事業」である。これは勤労意欲があるにもかかわらず、連帯保証人がいない、定まった住所がないなどの理由から職に就けず、結果として生活保護費を受給している人を、年間延べ800～1000人規模で受け入れ、技能訓練の実施や就労体験の提供を行うものである。

また、家や仕事を失った人々への支援活動として、東日本大震災復興支援にも力を注いでいる。岩手県一関市に復興支援本部を置き、人材を派遣し、炊き出しキャラバン、被災地家屋復旧、生活支援物資配布、就労・社会復帰支援など、さまざまな支援活動を行っている。

そうした事業を総括して、同法人の高橋英夫理事長は次のように語る。「社会貢献活動の入口は善意でいい。しかし、社会に生きている以上、そこに止まるのではなく、そ

れを当然の義務、責務としていかなければならない。それは企業であっても、個人であっても同じこと。私は人生を3分割し、最初の1/3は社会に育ててもらった時期、次の1/3は仕事を通じて社会に恩返しする時期、残りの1/3は社会貢献や社会還元へ費やす時期と捉えています」。



助成を受け創設された再チャレンジ夢工房ハウス



共生養殖田に抽水植物を植栽する様子



ホンモロコの採卵・孵化作業の様子



地域コミュニティハウスにてホンモロコ放流会の様子

再チャレンジ夢工房ハウスで 活力や尊厳を取り戻す。

AJOSCから助成を受けた「再チャレンジ夢工房ハウス」の創設・運営事業は、滋賀県高島市マキノ町に再チャレンジ夢工房ハウスを創設する。そこに就労の機会や場所を閉ざされ、貧困や弱い立場に置かれている人々を受け入れる。そして、「再チャレンジ夢工房隊」を結成し、さまざまな活動に従事してもらうことを通じて、自立や社会復帰に向けた足がかりをつかんでもらうというものである。

具体的な活動として現在、取り組んでいるのが、絶滅危惧種に指定されている琵琶湖の固有種「ホンモロコ」の養殖事業である。ホンモロコはコイ科の魚で、その味が特に良いことで知られているが、漁獲量は最盛期に比べて1/10以下しかない。そのため、地元の漁師などの指導を受け、休耕田として放置されていた田んぼを利用してホンモロコを養殖（採卵・孵化・育養）し、その一部を毎年11月、

担当者より



地道な活動ですが、
理解・支援をいただき
大変感謝しております。

NPO法人
グローバルヒューマン
平塚浩美さん

大きなイベントのように形になりにくいものですが、社会的に必要な活動として地道に継続していきたいと思っています。一人でも多くの方が生きる気力を取り戻し、社会に復帰していただくことを何よりの目的として、これからもがんばっていきます。

琵琶湖へ放流するほか、卸売市場に出荷したり、甘露煮にして販売することで、その売上げを就労報奨金にしている。

さらにガガブタ、コウホネなどの珍しい抽水植物の栽培、植林放棄地の間伐や間伐材利用による薪の生産などにも地元の住民や地域の農家と協働して取り組んでいる。また、マキノ町は古くから北陸と大和をつなぐ水陸交通の要衝で、国の重要文化的景観にも選定されているが、現在は過疎化が進み、地域や住民にとって必要な環境整備などの作業を行おうとしても、人手不足である。そうしたときにも再チャレンジ工房隊が貴重な労働力となっている。こうした活動が、貧困者や社会的弱者と彼らを受け入れる地域にとっての橋渡し役となっている。

なにより、技能や特技を持ちながら、社会的適応の歯車がわずかにずれたことで偏見や差別を受けてきた人々が、活力や尊厳を取り戻すことの意味は大きい。「ここに来た当初はまったく無気力だった人でも、働き始めるとすごく熱心だし、優れた技能を発揮してくれます。働く場所、住む家があり、人や自然と触れ合うことで人は元気になれるのだと感じている毎日です」と、同法人の平塚浩美さんは語る。人にとっての幸福とは何かを改めて考えさせられる言葉だった。